

献金について

中條 義幸

献金について執事の職を10年以上やらせていただいているいろいろ思うことかありました。職の立場上献金の勧めや新しい会員の方にこの教会の献金説明をするたびに、その説明の難しさを感じています。献金は「感謝の献金」といわれるだけあって会費でもなく負担金でもないからです。それに加え横浜中央教会の献金システムは〇〇献金が多くて新しい会員の皆様に理解してもらえることが難しい分、こちら側も説明するのが難しいのです。

今回は献金するとはどういうことか、私なりに思っていることを述べさせていただきます、献金に対する私の思いも記したいと思います。

私たちはこの世において神様の栄光を表すためにいろいろな賜物を授けられています。健康なからだ、良好な友人関係、いろいろな技能など、もちろん財産も。これらのものを用いて全力で神様を讃美することが我々一人ひとりに神様から求められていることです。すべて神様から与えられたものは管理していかなければなりません。「健康管理」これは神様から預かったこのからだを自分勝手に用いるのではなく、長く生かすこと良い状態で神様にお返ししようと思う思い。また、周りの環境。生きていくための豊かな自然と与えられた衣食住、人間関係(社会)に感謝していくことです。

この人間社会において貸し借りが生じ、それが数値化したものが「お金」です。お金をいっぱい持っていれば社会に貸しているということで、いずれ別なもので自分がその時必要としているのと交換できます。人生の中で、譲り受けたり貸したものを、いつ譲り渡したり返してもらうかを自分自身で決めていくことを「財産管理」といいます

人生においてこの財産管理をしっかりしていく知恵を神様から授かっています。働いて収穫し数値化されたお金の支出先は大きく分けて ①税金(公共のため) ②自分と身内の生活費、人生を豊かにする文化(娯楽費) ③神様のため(他人と教会のため)。になると思います。

②と③は人それぞれ優先順位や重要度といったものが異なり、割合や金額もそれぞれです。②を重要視するのも、③を重要視するのも神様から祝福されたことですが、しすぎたりといったような偏りすぎのバランスの悪い使い方をしていないか、時々見直して見るのも良いことかもしれません。教会の献金もこのような各クリスチャンのふところ事情に左右されることもあるのです。「教会の献金は集めるものでなく集まるもの。」この言葉は執事の職についている私にとって常に認識していなければならないと思っています。

次に、先に述べたことと違うお話をいたしますが、教会はその時その瞬間、お金が必要な時があります。災害など有事のとき、自分も困っているが近くにいる他人はもっと深刻に困っている。という時神様の求めておられることは？と考えてみることも大切だと思います。私たちが通っているこの教会、いわば神様が縁あってここで礼拝しなさいと与えられた私たちの持ち場。この教会の維持管理は教会員が支えなければなりません。財産管理と緊急性どちらを重視するかも、それぞれの事情において考え、行動しその結果神様から多くの祝福にあずかりたいものです。

「人の声は最高の楽器」

斉藤 みほ

先日、実家に泊まったときに父と一緒に You Tube でヘンデルの「ハレルヤ・コーラス」を聴きました。You Tube ですら、鳥肌が立つような、背筋が伸びるような、すばらしい曲がだなあと改めて思いました。私自身は、正直、歌は苦手なので、歌で人を感動させられる人は本当にすごいと思います。表題の言葉を聞かれたことがある方は多いと思いますが、「ハレルヤ・コーラス」などはこの言葉を見事に体現していると思います。ちなみに月曜夜 BS で放送されている「FORESTA」という声楽グループがひたすら昔の日本の歌を歌う番組も一緒に観ていたのですが、演目はともかく、歌唱力は抜群で、やはり人の声というのは本当にすばらしい楽器なのだなあと感じました。

「人の声は最高の楽器」という言葉とともに、「〇〇（楽器名）は人の声にもっとも近い楽器である」という言葉も聞かれたことかあると思います。どんな楽器が「人の声に近い」と言われるのか検索したところ、実はたくさんの楽器が「人の声に近い」と言われていることがわかりました。フルート、サクソ、クラリネット、ファゴット、トロンボーン、ホルン、トランペット、ヴァイオリン、チェロ、オルガン、ピオラ、ハーモニカ…など。呼気で音色を出すから管楽器が人の声に近いと言われるのかな、と思ったのですが、弦楽器もそうだとされていることは少し不思議に感じます。とはいえ、これだけの楽器が「人の声に近い」ことを主張するということは、それだけ「人の声」が優れた楽器であるということを表していると言えます。

とはいえ、何をもってして「優れている」と判断するかは難しいですが、様々な楽器と違い、「歌」は基本的には誰もが簡単に演奏することができ、身近に親しむことができる点においては、たしかに優れているといえます。音楽は人の心を豊かにしてくれますし、神様はその手段として人に「声」と「歌」を授けてくださったのだらうなと思います。

教会の礼拝ではたくさんの讃美歌を歌いますが、歌うことが苦手な私でも讃美歌を歌うことは楽しみです。ときどき、家の近く（でもないですが横浜よりは近く）の教会で礼拝を守ることがありますが、その教会の礼拝出席者は20人に満たないため、讃美歌を歌う声は私たちの教会と比べると小さくなります。せめて、下手なりに大きな声で歌おうと思うのですが、もっと歌が上手だったら…と感じることも多くあります。とはいえ、やはり讃美歌は信仰で歌わないと神様にはきちんと届かない、とも思うので、たとえ声が小さくても下手でも、心をこめて歌えば神様はきっと喜んでくださるだらうと思います。

私は、讃美歌を歌うときはなるべく顔を上げて歌うように心がけていますが、ともすると、ただ字面だけを追っているだけだったり、歌詞を追いながらまったく別のことを考えていたりすることもよくあります。最初から最後までずっと集中し続けることはなかなか大変なことだと思うのですが、「神様に届きますように」と思いながら讃美を捧げることができるように、これからも心がけていきたいと思っています。